

令和4年度笛吹市博物館運営協議会 第2回会議 会議録

- 1 日 時：令和5年3月17日（金）午後1時30分～3時00分
- 2 場 所：笛吹市春日居郷土館研修室
- 3 出席者：◇笛吹市博物館運営協議会委員
長澤宏昌、依田弘治、鶴田一二美、篠原 誠、西海俊夫、廣瀬 勲、
廣野政明
欠席委員：蘆田俊哉
◇オブザーバー
一瀬一浩（釈迦堂遺跡博物館）
◇教育委員会
望月教育長、赤尾教育部長
◇教育委員会事務局（文化財課）
望月課長、文化財担当 瀬田リーダー、内田、若林
- 4 傍聴人：なし
- 5 次 第
1 はじめのことば 司会進行：事務局
事務局
2 会長あいさつ 長澤会長
3 議 事 議長 長澤会長
(1) 令和4年度入館状況及び活動報告について
① 春日居郷土館・小川正子記念館
② 八代郷土館
(2) その他
① 令和5年度の年間計画について
4 閉会のことば 依田副会長

- 〈進行〉 令和4年度第2回笛吹市博物館運営協議会を開始します。
最初に、会長から挨拶をお願いいたします。
- 〈会長〉 もう年度末ですので、皆様いろいろとご多忙だと思います。やっとコロナが落ち着いてきましたが、まだまだ油断していいという状況ではないと思います。本日は令和4年度第2回目の博物館運営協議会になります。
- 先日、石川県立歴史博物館を見てまいりました。その前に東京で日本貨幣博物館に行きました。ここは、富本銭から始まる貨幣、それから藩札や紙幣などのプロセスがみんなわかって、しかも無料です。東京駅のすぐ近くですので、皆さん時間がありましたら一度行かれるとよいと思います。なぜこんな話をしたかという、この施設には、博物館の「色」が出ているからです。博物館の色というのは、大事だと改めて確認しました。今日、オブザーバーで参加している釈迦堂遺跡博物館は、まさにその釈迦堂遺跡という色を全面的に出したネーミングから始まって、博物館の色がよく出ている。これが一番大事だということを改めて思いました。今日は年度末ということですので、いろいろと報告があると思いますが、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- 〈進行〉 ありがとうございます。
- 本日、教育長が出席しておりますので一言ご挨拶を申し上げます。
- 〈教育長〉 みなさま、改めましてこんにちは。お忙しい中、博物館運営協議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
- この運営協議会の任期もあとわずかでございますけれども、任期中は笛吹市の博物館運営に多大なるご指導をいただきましたことに感謝を申し上げます。
- さて春日居郷土館では、毎年夏に「わが町の八月十五日展」を開催しておりますが、令和4年度は41日の会期で、644人の来館者を迎えることができました。
- また企画展としまして、青楓美術館と春日居郷土館の2ヶ所の会場で津田青楓の作品展を開催いたしました。春日居郷土館では9月から12月の会期中、1,000人に迫る来館者を迎えることができました。職

員によるギャラリートークを行ない、学芸員としての知識の幅を広げる機会になったと感じています。

小川正子に関する資料については、日記や手紙類の整理を現在進めております。日記には山間地に出向き、ハンセン病患者を確認する場面なども描かれております。これらの資料については、引き続き調査を進めてまいりたいと考えています。

郷土館では資料の調査や展示を通じて、郷土への誇りと愛着を醸成していきたいと考えております。委員の皆様方には、これからもご指導、ご協力のほどをお願い申し上げます。本日はよろしく願います。

〈進行〉 これより議事に入りますが、規則により会長に議事進行をお願いします。

〈会長〉 それでは議事（１）令和4年度入館状況および活動報告について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 最初に春日居郷土館、小川正子記念館の令和4年度の入館状況および活動報告について概略を報告させていただきます。

春日居郷土館、小川正子記念館では特別展あるいは企画展として三つの展示を行いました。「小川正子と長島愛生園展」が6月8日から7月8日、「わが町の八月十五日展」が7月13日から8月29日、「津田青楓 前進の時代」と題して一宮町にある青楓美術館の収蔵作品による企画展示を9月14日から12月16日まで行いました。「津田青楓 前進の時代」の会期中の入館者数は978人でした。

この「津田青楓 前進の時代」の展示期間中、「ミニ展示で駆け抜ける笛吹市の通史展」と題してロビーの談話スペースにてミニ展示を9月から12月まで開催しました。

ギャラリー展示として、市民の方の作品などを展示しました。3月24日から4月11日に「なが山房子展～縄文人への手紙」、11月2日から11月21日にかけて、「押し花作品展」を行っています。

次に、年間の入館状況を報告します。4月から2月末の時点で春日居郷土館には2,136の方が入館されております。令和2年度・3年度とコロナの影響で入館者数が落ち込みましたが、ようやくコロナ前の水準に戻りつつあるという状況です。

続けて「小川正子と長島愛生園展」について説明します。令和4年は小川正子生誕120年にあたるということで、ハンセン病について考える週間にあわせ、長島愛生園歴史館からハンセン病や長島愛生園の歴史を紹介するパネルを借りて展示しました。総展示数は66点、6月6日から7月8日まで行いました。観覧者数が156人でした。6月25日にギャラリートークを行い、8人の参加がありました。ネットニュースを見て、東京都と千葉県からギャラリートークに来てくれた方がいました。開催期間中には長島愛生園歴史館の学芸員が来館しました。以上、説明を終わります。

〈会長〉 小川正子と長島愛生園展の説明がありました。入館状況等の推移も含めて、これについて皆様方の方から何か確認、あるいはご質問等がありますか。

それでは、これについては以上ということで、引き続き事務局の説明をお願いします。

〈事務局〉 続きまして「わが町の八月十五日展」について説明します。今年度は「学校日誌で振り返る8月15日」ということで、市内の小学校に残されている学校日誌、学校沿革誌などから終戦の日の学校の様子を紹介するコーナーを作りました。7月13日から8月29日までの会期中、644人の入館者がありました。7月14日に小菅中学校1年生が、8月29日に春日居小学校の6年生が来館しました。また、春日居中学校の生徒会による折り鶴プロジェクトが行われています。これは折り鶴を並べて大きな文字を作って生徒の思いを表現するものです。春日居郷土館ロビーで展示しました。

今年度の展示のなかでは、市内の小中学校の学校日誌、沿革誌を展示しました。資料を借りた学校の先生や子どもたちも見に来てくれました。

〈会長〉 「わが町の八月十五日展」についての説明がありました。質問等ありますか。

私の方から一ついいですか。「わが町の八月十五日展」はこれで何回目になりますか。

〈事務局〉 合併前から開催していて、今回で25回目になります。

〈会長〉 お聞きの通り、25回目ということです。これはもうずっと続けている、まさにこの博物館の特色の一つでもあるということです。これは重要な意味を持った展示ということだと思います。この間も新聞に出ておりましたが、「だんだん戦争というものが薄れてくる」と。また、ニュースを見ていましたら、教科書から「はだしのゲン」が除外されるという話がございました。そうした中で、ある種のこだわりを持ちつつ、それをどれだけ続けていくか、もちろん入館者が多ければ多いに越したことはないけれども、入館者の数を云々というよりも、それをやり続けるということの意味というのは非常に強いと思っております。ぜひこれは続けていくべきものと考えております。

委員の皆様方から何かございますか。では、事務局には引き続き説明をお願いします。

〈事務局〉 続きまして「津田青楓 前進の時代」の開催状況について報告させていただきます。これは一宮町にあります青楓美術館と共同で開催する企画展で、第1会場とした青楓美術館では「小池唯則と津田青楓展」として青楓美術館創立のきっかけとなった津田青楓と小池唯則氏の交流について紹介しています。

春日居郷土館は第2会場として、「津田青楓 前進の時代」というタイトルで展示を行いました。京都に生まれた青楓が、図案の作成から画業を始めて、フランス留学や夏目漱石との出会いを経て、二科展の主要メンバーとして日本の美術界をリードしたという青楓の前半生の作品を紹介させていただきました。

この展示でも学校へ働きかけて来館をお願いしました。春日居小学校、一宮西小学校、春日居中学校、一宮南小学校の児童生徒が来館しています。津田青楓作品を鑑賞して感じたことを文章にする

「鑑賞文」に取り組んでもらいました。期間の後半には、青楓作品の横に鑑賞文を展示させていただきました。

期間中、文化財課の職員でギャラリートークを開催しました。教育長の挨拶にもありましたが、我々も非常に勉強になりました。以上、報告させていただきます。

〈会長〉 いま説明がございましたけれども、皆様のご意見等はございますか。

- 〈事務局〉 この郷土館について、学校との連携が非常に大切だという考えのもとに、展示会の際には、学校に声を掛けさせていただきながら、子供たちに見に来てもらえるようお願いしているところです。コロナの影響で授業のカリキュラムが不安定になっている状況もありながら、これだけ多くの学校に来ていただきました。特に津田青楓展では、子供たちの鑑賞文を展示させていただきました。こうした取り組みの中で、学校や子供たちと一緒にいろいろなことをやっていくということの大切さを改めて感じているところでございます。
- また、研修室やロビースペースにも様々な展示をし、子供たちがそれを見て、学習する取り組みにも今年特に力を入れました。「地元愛カード」という、QRコードでいろんな資料のリンクにアクセスできるカードを作り、それを来館した子供たちに配布して郷土に親しんでもらう取り組みに力を入れております。
- 〈会長〉 連携ということで説明が追加でございました。それを含めてご意見ございましたら、どうぞ。
- 〈委員〉 その前の説明で春日居郷土館の入館状況の表がありますが、10月の減免総額9円というのは何ですか。
- 〈事務局〉 この9円については記載ミスです。0円に訂正させていただきます。
- 〈会長〉 よろしいでしょうか。事務局、続けてください。
- 〈事務局〉 それでは「ミニ展示で駆け抜ける笛吹市の通史展」について説明します。
- 総合展示室で津田青楓展が行われている期間中、旧談話室と研修室を使って通史展示を行いました。2週間ごとに時代の古い順から縄文、弥生、古墳などの資料を展示していき、12月には甲斐国分寺跡のミニ展示を行いました。展示を替えるごとにチラシを作成して配布しました。

- 〈会長〉 この青楓展の期間中に常設展を片付けたので、それに代わるものということで時代を限定してミニ展示を行ったということです。これについて何かご意見・ご質問ありますか。
次にギャラリー展についてお願いします。
- 〈事務局〉 それではギャラリー展について説明します。
まず春期に「なが山房子～縄文人への手紙」というタイトルで展示を行いました。
約40点の作品を3月24日から4月11日の月曜日まで、花祭りの期間に合わせて行いました。入館者数は162人ありました。ギャラリートークやワークショップは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止しました。
秋期には、「押し花作品展」を11月2日から11月21日まで行いました。期間中の入館者は351人でした。開催期間中には体験教室も3回行いました。
以上、報告を終わります。
- 〈会長〉 ギャラリー展が二つありましたが、それについて何かご質問等ありますか。
それではギャラリー展については以上ということにいたします。
各種講座の開催について説明をお願いいたします。
- 〈事務局〉 各種講座について説明します。「一貫張り」と「伝承切り紙」の二つのメニューを用意して参加者を募集しました。4回実施し、合計で30の方が参加しました。
以上、説明を終わります。
- 〈会長〉 何かございますか。それでは春日居郷土館・小川正子記念館の令和4年度事業についての説明は以上とさせていただきます。
続いて八代郷土館について報告をお願いいたします。
- 〈事務局〉 それでは八代郷土館について説明していきます。
まず学校での利用は、2月2日に八代小学校の3年生が昔の道具を学ぼうというテーマで来館しました。また2月7日には、石和北小学校の3年生も来館しています。

学校以外での利用では、12月17日に映画のロケ隊が八代郷土館で撮影を行いました。

また、2月26日には八代体育協会のウォーキング大会の参加者が郷土館の方に立ち寄りしました。

〈会長〉

八代郷土館の報告がありました。報告を聞きますと、ほとんど利用がないということがわかります。以前から八代郷土館については、今の時期に収集をしておかないとなくなってしまう資料、民具について動態保存をいかにしていくかが非常に大きなテーマで、実際に動態保存したものを使うという体験がこの博物館の存在意義であると思います。それがなかなか実施できていない。文化財課でも簡単にいかないことは承知していますが、前からもう一つ言っております映像記録についてはどうですか。記録保存ということで考えたときに、今、収集できる映像をこの時期に集めておかないと、これもまた消失することになります。それは喫緊の課題として何度かこの話題にも上っているはずですが、現実としてそれが集まっているのかどうかということをお答えいただきたいと思います。

〈事務局〉

映像の記録は、進んでいないというのが現状です。郷土館にある民具は、まだ十分稼働するものが多々ありますので、引き続きそれらの活用は進めていきます。今までも年間2校から3校で貸し出しについての問い合わせがあつて、実際にそれを使って学校で体験学習をするところもありました。そういう活動をまた復活し、使っている様子も記録として残していきたいと思います。

引き続きの課題ということでご容赦いただきたいと思います。

〈会長〉

はい、ありがとうございます。引き続きそれについては努力をしていただくということでよろしくお願ひしたいと思います。委員の皆様から何かございますか。はい、どうぞ。

〈委員〉

今年度の様々な活動の中で、去年より一つでも違う資料を展示したとか、活動をしたというようなことがありますか。

〈事務局〉

我々のこの資料館につきましてはメインの展示室が一つあり、もう一つ小川正子に関する展示室がありますが、多くの展示室があるわけではありません。複数の企画を同時期に開催することは難しい

ことですが、今年度は、この研修室やロビースペースを使ってミニ歴史展やギャラリー展示に取り組んできました。

それから学校連携としては、これまでに様々な地域学習の資料を作り、それを学校に出前講座で届けることをやってきました。今年度はその資料の中から厳選してQRコードで繋いで、スマートフォンやタブレットなどで見る事が出来るようにしました。郷土館から情報を発信することで学校との繋がりを深めていくことに取り組んでいます。

〈委員〉

ほかの博物館では歴史文化を展示しています。身近なお祭りから伝統芸能、衣食住の話など。文化財課が呼びかけて、地域の皆さんが集めて、文化財課へ届けられればいいと思います。

私が住んでいる地域に「臼の清水」という湧水がありますが、それが段々途絶えてなくなっていく状態です。そういったものが各地域にも点在していると思います。そういったものを保存すると同時に、何らかの形で紹介していくといいのではないかと思います。

〈会長〉

ありがとうございます。他にご意見等ございますか？

今年度の入館状況および各活動報告について説明等をいただきましたが、これについては以上とさせていただきます。

続いて議事（2）その他について説明をお願いします。

〈事務局〉

令和5年度の年間計画については、令和5年度の委員会で再度検討いただきますが、こういう方向で考えているということを概略で説明させていただきます。

現在予定しております企画につきましては4件ございます。

まず重監房パネル展示ですが、こちらにつきましては草津の重監房資料館の協力を得ながら行います。

続きまして「わが町の八月十五日展」につきましては、7月から8月にかけて展示を予定しています。細かいテーマにつきましては、またこれから検討という形になります。

それから3番目として、「津田青楓 20世紀最後の文人画家展(仮題)」です。これは、令和4年度に開催した津田青楓展に続きまして、青楓が洋画を断筆した後の後半生の作品を紹介していきたいと考えています。9月9日から12月17日の会期で検討しています。

最後に、「市民ギャラリー」として、市民の皆さんの作品を展示させていただきたいと思います。

また、先ほど廣野委員からお声がありましたが、地域の皆様と交流する中で「こういった郷土資料がある」などの情報を集めることが出来れば、郷土にあるものを紹介するような展示もやっていきたいと思っています。

〈会長〉 ありがとうございます。来年度の年間計画について概要を説明いただきました。

いくつか既に計画があるようですが、何かご質問等ありますでしょうか。

〈委員〉 例えば重監房パネル展、意義は十分に分かるのですが、ネーミングとか、展覧会の名称をもっと工夫してもらわないと、私どもの足は重くなり、このタイトルでは行こうという気にはなりません。

それから、最後のギャラリー展の開催ですが、開催する側は無料ですか、入場者も無料になりますか。

〈事務局〉 展示会場につきましては、研修室か旧談話室のスペースを想定しています。その使用料は無料で検討をしています。ギャラリー展示のみを見る場合の来館者は無料で見ていただくように検討していますが、総合展示室や小川正子に関する展示を見る場合は有料になります。

〈委員〉 笛吹市文化協会にも情報提供をしてもらいたいと思います。そちらは生涯学習課の担当になると思いますが、そちらとの連携もしっかりと取ってもらいたいと思います。

〈事務局〉 文化協会の皆様と連携をとっていきたいと考えております。

〈会長〉 ほかにご意見ご質問等ございますか。

〈委員〉 一宮の文化協会会長が青楓美術館運営協議会の会長を兼任しておりますが、建物が老朽化していると言っていました。改築することも難しいし、アクセスの便も悪いということです。春日居郷土館で

青楓の作品を紹介する展示があり、たくさんの作品が展示されましたが、青楓美術館の作品保存が少し心配だそうです。

こちらと青楓美術館との連携の中で、作品の保存については打ち合わせがされていますか。青楓美術館との連携ということで、よろしいですか。

〈会長〉

事務局からお答えをされる前に、私も実は同じ質問をしようと思っていました。

前回の6月の会議で文化施設の再編についてという話がありました。春日居郷土館の改修、そして青楓美術館の統合という言葉が使っています。これは今の話と全くダブってきます。この話がどう進んでいるのか話をしていただかないと、ここから先の論議ができません。事務局からの説明をお願いします。

〈事務局〉

青楓美術館との機能統合について、現状を説明させていただきます。

まず、この会議でも話題になっておりますが、青楓美術館の運営協議会でも複数回の論議がなされています。意見交換をしながら調整を進めているところです。

青楓美術館側では、建物が老朽化しており狭い、アクセス道路も狭いということは承知しながら、小池唯則さんがあの場所に美術館を作った意義を認識しながら考えてほしいという意見をいただいております。また春日居郷土館周辺では水害が心配という意見もいただきながら検討を進めています。引き続き運営協議会の中でまた議論を進めることになっています。

また春日居郷土館の改修につきましても検討しています。青楓美術館では、2階にある8畳から10畳くらいの広さの部屋を収蔵庫とし、そこに棚を作って作品を収蔵管理しています。その部屋は空調を入れて温度・湿度を管理しています。春日居郷土館にもそういう収蔵スペースが必要だと理解しています。また、展示スペースを仕切る可動式の壁の設置、談話室、ロビー、小川正子の展示室など全体的に照明が暗いので改修が必要だと考えています。

より使い勝手良く、来館者の方が展示を見やすく、作品や文化財が適切に収蔵・保管されるように改修することが必要だと考えています。

〈会長〉

いかがでしょうか。今、話を聞かせていただきましたが、使い方を工夫する、レイアウトを考える、そういう言葉が次から次へ出てきますが、具体的なものが全然見えてこない。それが現状です。

非常に危惧していることを申し上げますが、例えば今日の報告の中で青楓の展示をするために常設展を片付けた。片付けたから研修室を使って、ミニ展示で笛吹市の通史を駆け抜けたそうですけれども、これは駆け抜けるわけにいかないと思います。笛吹の通史展示が縄文時代から始まって国分寺の展示まで、7回か8回くらいに分けてやらざるを得ない状況になっている。つまり笛吹市、「甲斐国千年の都」をうたっている施設がその千年の都の展示のスペースも失ってしまうような状況にも陥りかねない話を、今しているのです。これはとても容認できる話ではない。このスペースだけで足りるわけがないのです。

例えば、縄文時代については、世界中からインバウンドで人が来る展示品になるものは、山梨と長野以外はあまりない。それだけのものを笛吹市は持っているし、それだけでも展示スペースが足りない。山梨県全体の歴史を見たとき、笛吹市を抜きには考えられない。5世紀ぐらいから大体16世紀ぐらいまでは笛吹市を抜きには山梨県の歴史は語れません。それを紹介するのは、笛吹市以外はありえないのです。それを簡単に駆け抜けるというような感じで考えられては困ります。これは市民だけでなく、山梨県民にとっても大きなマイナスになると思います。誤解しないでいただきたいのは、津田青楓のことを否定しようと思って話をしているわけではありません。安易な統合という考え方が、両方を殺してしまうことになりかねないということです。

今まだ検討をしている最中ということですが、検討の状況というのは逐次、私どもこの博物館の運営協議会の方には提示していただきたい。各段階で、今どういう話になっているということを提示していただきたい。そここのところは非常に重要な問題になってきます。これもはっきり申し上げておきたい。はいわかりましたというわけにはこれはいきませんよということを申し上げておかねばならないということでもあります。

皆様方の意見をどんどん出していただければと思いますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

- 〈委員〉 青楓を扱うのであれば、この会議に青楓美術館の言葉を喋れる人を入れて協議をすべきだと思います。そういうことは可能でしょうか。
- 〈教育長〉 お話をいただきましてありがとうございます。青楓美術館については保存や展示の課題、施設の課題、老朽化の課題、あるいはその建物自体の消防法の課題、学校利用についての課題など様々な課題があります。青楓美術館の集約化を考えたときに、この春日居郷土館への統合を検討しています。
- 会長さんの発言のように、たくさん課題があります。ここには文化財もございますし、小川正子の記念館もございます。さらにここに美術館が統合されてくることになれば、それは総合的な博物館の機能を持つということになります。青楓だけの議論ではないと考えております。今後、総合的に議論をしていく場をきちんと設けながら対応していくことが肝心であると考えております。
- 貴重なご意見ありがとうございました。
- 〈委員〉 前回、私もいろいろ意見を言わせてもらいましたが、青楓美術館については、一宮町に住んでいる方の思いを大切に話を進めてもらいたいと思います。文化協会の方々に話を聞くと、美術館機能だけでなく、そこが文化活動の拠点になっているということでした。耐震設備が古くて駄目だったら一宮町の人々にクラウドファンディングをしてもらって、道路にバスが入れないのであれば一宮北小学校の駐車場を使うなど、私としては一宮町の住民の思いをぜひとも引き継いでもらいたいと思います。
- 春日居郷土館に青楓の作品を持ってくるとしても、ここが広いわけではない。現在検討中ということですが、地域の人々の声をぜひとも聞いてもらいたい。住民の思い入れとか気持ちを汲んで計画を進めてもらいたいと思います。
- 〈会長〉 ありがとうございます。
- 今おっしゃられたことは、本当に正論だろうと思います。検討の状況というのは我々の耳にも入れてほしい。初めに結論ありきというのは皆さん納得できる話ではない。そのあたりは慎重に考えていただく必要があると思います。

他にご意見、いかがでしょうか。あるいは事務局の方で考えていることがあれば、お願いいたしたいと思います。

〈事務局〉

貴重な意見をありがとうございます。

いただいた意見を参考に検討してまいります。また青楓美術館統合の状況も逐次報告をさせていただきたいと思います。先ほど教育長も言いましたが、両方のことを同時に考える場を設ける必要があることを我々も承知していますので、お示しできるようにしたいと思います。

〈会長〉

他に皆さんの方のご意見はございますか。よろしいでしょうか。

今、事務局のお話を聞かせていただきました。今ここでどうというわけにはもちろんいきませんので、これは慎重に検討していただき、その中で運営協議会として話をできる部分には話をさせていただくという立場だろうと思います。その辺りはまさに検討を十分にさせていただくということが何より大事だというふうに思います。今後もよろしくご検討をお願いしたいと思います。

それではこの件について皆さんの意見がないようであれば、そのほかに確認や意見がありましたらどうぞ。

オブザーバーから発言があるようです。

〈オブザーバー〉

私どもは現在「Jomon Collection-笛吹市-」という展示を行っております。日頃、春日居郷土館にある資料をお借りして展示しておりますが、私どもはいいものをより良く見せるという思いで展示をしています。テレビで紹介していただいた効果により、週末から非常にたくさんの方が来てくださるようになっております。これで少しコロナの影響から抜け出せればという想いをしております。機会があればぜひ足を運んでいただければと思います。

〈進行〉

会長、議事の進行ありがとうございました。

それでは閉会の言葉を副会長にお願いいたします。

〈副会長〉

今日はいろいろ課題が出ました。入館者等はそれなりの数字が出ていましたが、私たち、ボランティアガイド笛吹は開店休業の状態でした。この数字に安心せずに運営していきましょう。

